

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： 特定非営利活動法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野市南高田2-5-16
評価実施期間： 平成27年10月28日から平成28年2月19日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 50301 B15020	

2 福祉サービス事業者情報（平成28年1月現在）

事業所名（施設名）： ふるさと	種別： 通所リハビリテーション
代表者氏名： 理事長 花岡 邦明 （管理者氏名） 施設長 丸橋 建一	定員（利用人数）： 55名（105名）
設置主体： 長野医療生活協同組合 経営主体： 長野医療生活協同組合	開設（指定）年月日： 平成10年7月15日
所在地： 〒381-0081 長野市三才683	
電話番号： 026-251-3155	FAX番号： 026-251-3156
ホームページアドレス： http://www.healthcoop-nagano.or.jp/office/furusato.html	
職員数	常勤職員： 4名 非常勤職員 13名
専門職員	（専門職の名称及び人数）
	介護福祉士・介護職 9名 理学療法士 2名（兼務含む）
	看護師 1名 送迎専任担当者 5名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等） 通所リハビリテーション室（食堂兼機能訓練室兼レクリエーションルーム） 車椅子用トイレ、相談室、会議室、ボランティアルーム、特殊浴室、一般浴室、大浴槽 送迎車両9台（内リフト車両4台） 非常照明、誘導灯、非常放送設備、自動火災報知設備、スプリンクラー設備、消火栓、消火器

3 理念・基本方針

<p>「医療福祉生協の理念」「民医連綱領」をもとに長野医療生活協同組合の理念を定めている。</p> <p>長野医療生活協同組合の理念</p> <p>（1）長野医療生協は、保健、医療、福祉（介護）事業を通じ、地域まるごと健康づくりに貢献する。</p> <p>（2）組合員・職員は、すべての活動に主体的に参加する。</p> <p>老人保健施設ふるさと事業所目標</p> <p>ひとりひとりの職員が「次」のことを考え行動し、「医療生協の介護」の実践に努め、在宅支援等のために適切なサービスの提供に努めてまいります。</p>
--

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

長野医療生活協同組合（以下「長野医療生協」という。）は、63,340人（2016年1月20日現在）の組合員からなる医療福祉事業を行う生活協同組合組織であり、長野市を中心に、医療・介護・健康づくりの事業と運動をすすめ、地域まるごと健康づくりをめざし活動している。

そのため、長野医療生協では、地域の組合員による「班会」や「支部活動」等を通じ、健康知識の普及や生活習慣の改善援助を通して、組合員の健康づくりに貢献するとともに、医療福祉サービスの提供を行っている。

医療分野では、長野市の中心部に位置し、多様な診療科を有す長野中央病院（322床）をはじめ、南長池診療所、稲里生協クリニックなどの診療所を有し、日々の診療活動を展開するとともに、健診活動なども積極的に取り組んでいる。また、介護分野でも、老人保健施設ふるさと（以下「老健ふるさと」という。）の入所療養介護をはじめ、訪問看護、訪問リハ、訪問介護、通所リハ、通所介護、短期入所、グループホームなどの多様なサービスを通じ、医療事業とともに、組合員外にも法人としてサービスの提供を行っている。

これら全体の事業の統括を、長野医療生協理事会及び地域活動部、事業部、総務部からなる法人本部が一体的に行っており、日常的な運営は、各事業所の管理部及び理事会直属の運営委員会により行われている。

「老健ふるさと」は、在宅生活への復帰支援及び在宅療養生活の支援に力点を置いており、そうした中で通所リハビリテーションも重要な役割を果たしている。また、「老健ふるさと」は法人内の介護分野での中心的な役割も担っており、学習、研修も盛んに行われ、ケアの質の向上に日常的に取り組んでいる。

ボランティア活動も活発で、地域からの参加者も多い「老健ふるさとまつり」等、地域を巻き込んで活動も積極的に展開している。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	1回（今回が初めての受審）
---------------	---------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

理念の沿ったサービスの提供

「保健、医療、福祉（介護）事業を通じ、地域まるごと健康づくりに貢献する」という長野医療生協の理念に沿い、及び「老健ふるさと」の事業目標の達成に向け、通所リハビリテーションを通じ、在宅支援のためのサービスの提供を積極的に行っています。

利用者に合わせた食事の提供サービス提供をしており

利用者への食事は外部委託ではなく、自事業所の職員である管理栄養士や調理員等の専門スタッフにより提供されています。地産の材料（米等）の使用や、管理栄養士により食事のメニューにエネルギー、タンパク質、塩分等の表示がされています。塩分は1.6g程度の減塩を心がけており、味付けは「だし」等を工夫して濃い食感を工夫しています。また、利用者に合わせた個別の食事形態での提供がされています。

組織的、体系的な人材育成

法人全体を通じ「職務能力開発基本方針」をもとに、人材育成基本方針・目標、昇給降格、人事考課に関する基本的考え方、職員教育基本要領が示され、職員の研修の仕組み、初任者、中堅、リーダー層の計画が体系的に計画され人材育成の仕組みが良くできています。またMBO（目標管理）の手法を用い、個人の成長と各階層での評価が定期的に行い、医療と介護とが連携された内容になっています。法人本部による職員育成の観点からの教育に加え、「老健ふるさと」では、介護分野を中心に専門領域研修計画を立て、人材を育成している点が評価できます。

ISO9001：2008利用による利用者満足のサービスの提供

「長野医療生協」は品質マネジメントシステム ISO9001 を通じ、法的要求事項、規格要求事項、患者または利用者の要求事項及び施設内の基準を満たし、社会的信頼を得て、患者または利用者が満足できる医療、介護サービスを一貫して提供できる仕組みを計画し、実施し、検証し、改善することを目的に運用しています。「老健ふるさと」の介護サービスはこの認証範囲に含まれており、年 1 回の内部監査や利用者満足度調査を通じ、利用者のニーズの把握にも努め、継続的改善を行っています。

地域との緊密な連携

「老健ふるさとまつり」が毎年開催されています。介護報酬の改定や事業所方針の説明の場も持たれています。更に地元区の「敬老会・公民館発表会」が同施設の会場で行われ、施設職員を講師として講演会が開かれるなど、地区民生委員を含んだ地区役員、地域住民との交流の場となっています。地域との緊密な連携が出来ているといえます。

積極的に行われるボランティア活動

ボランティア委員会を中心に「ふるさと喫茶」「環境整備（草取り）」「歌の会」や、通年での「味噌づくり」、「老健ふるさとまつり」等の行事にボランティア活動が積極的に行われており、区内の保育園などとの交流もあり、新しい出会いや交流が広がっています。

特に改善する必要があると思う点

利用者への権利擁護の確実な情報の提供

苦情や意見等を述べた利用者に対し不利益な扱いをしないことは、組織の就業規則や手順書により明示され、利用者には「利用約款」、「案内」等でこれらの利用者の権利について説明しています。しかし、「万が一不利益な扱いを受けた場合は、事業所として責任ある対応をとるので、責任者にその旨を申し出てもらいたい」旨の記載については、更なる利用者への権利擁護の丁寧な周知と情報を提供する観点から、改善の余地があります。

法人の中長期目標との連動

2015 年 1 月 24 日の理事会に長野医療生協第 7 次長期計画（第 1 次案）が示され、意見募集を含め現在策定中です。「老健ふるさと」については在宅復帰強化型の老健として通所リハビリとあわせ在宅での生活を支援する役割を重視しています。中長期予算についてはまだ、策定中とのことですが、中長期目標と連動する中長期部門予算についても策定され周知されることを推奨します。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象 福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象 組織の運営管理（別添 1）

評価対象 適切な福祉サービスの実施（別添 2）

8 利用者調査の結果

長野県福祉サービス第三者評価事業評価結果取扱要領第 2 条第 1 項の規定により、有効回答者数が 10 人未満のため、非公開とします。

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(平成28年2月14日記載)

私ども「ふるさと」は、1998年に長野医療生活協同組合が、「在宅支援」のために開設した「老人保健施設」です。2000年の「介護保険法」の施行に伴い、基準となる法律が「老人保健法」から「介護保険法」へと変わり、「介護老人保健施設」として現在に至っていますが、いまでも「在宅支援施設」としての基本路線を堅持し、「入所」「短期入所」「通所」の3つの事業を運営しています。

今回、当施設の現状を客観的に評価し、サービスの質（「ふるさと品質」）の向上に役立てていくことを目的に、「福祉サービス第三者評価」の受審をさせていただきました。

受審の結果は、別紙のとおりですが、思いのほか、高い評価をいただきました。これらの要因としては、これまでも、介護保険法で規定されている「介護サービス情報の公表」などに対応させてきていたことに加え、サービスの品質保証を通じて、顧客満足向上と品質マネジメントシステムの継続的な改善を実現するための規格であるISO 9001を受審し、認証を継続しており、その中で必要と思われる改善（策）を日々講じてきていることの結果ではなかったかと考えております。

しかし、そうした中であっても、今回の「福祉サービス第三者評価」においては、組織としての理念や長期的計画などといった大きな視点から、日々の業務やそれに取り組む姿勢などの細かな視点までの幅広い分野が問われていました。この受審の準備をする中で、日々の業務から一步離れたところで、そのひとつひとつについて検討できたことの意義は大きく、また、様々な場面で改めて考えることも多く、当事業所の弱い点も職員の中で明確になり、今後の活動の中でもおおいに役立つものとなっていくものと確信しております。

今回、受審させていただいた「福祉サービス第三者評価」の法的な位置づけが、私どものような「社会福祉法で規定された社会福祉事業」ではない（いわゆる「医療系」といわれる）介護老人保健施設としては、あまり接点のない「社会福祉法」にあることもあり、設問の趣旨や意図が理解しにくかったり、どこまで求められるのかの解釈ができず、評価機関である「特定非営利活動法人 環境・福祉事業評価センター」の方には多大なるご迷惑をおかけしながらの受審となりましたが、親切なご対応をいただき、今回の受審が当方にとって良い学びの場にもなったと感謝しております。ここで学び、考えたことを、ご利用いただいている皆様から頂いております声とともに、今後の活動の中に反映させ、ご利用いただいている皆様にもお返しできるよう、職員一同、更に努力してまいります。ありがとうございました。